

Yamakado News Letter



新型コロナウイルス対策による道の駅閉鎖のため、久々に作業に参加された浅井会長 5/2

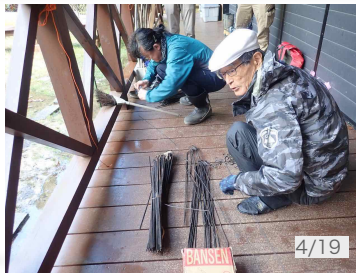


4/12

天然更新試験地は頑丈なAFネットに張り替え



4/16



4/19

ネットの裾留め用番線加工



4/25

ネットの裾を番線で固定

春は防獣対策が最も忙しい季節

長年の保全作業の成果が現れ、この春も沢山のササユリが芽生えています。そのササユリを獣害から守るため、防獣対策に追われる日々です。幸か不幸か、新型コロナウイルス禍の影響でガイドや研修などの受け入れが全てキャンセルになり、保全作業に人を集中しています。

生物多様性を保全していくには、以下の2つが大きな課題となっています。一つは人の関わりです。いわゆる里山の生物多様性は、人の関わりにより維持されてきました。植生遷移が進むと極相林化してしまうところを、人の活動による影響で、その都度遷移のステージが何段階か前に戻ることを繰り返してきました。昔はそれが経済活動であったため持続してきた面があり

ますが、現在では山の経済性は小さく、逆に保全にコストがかかります。この人材面や資金面でのコストをどう賄い、持続性を確保するかが課題です。

もう一つは動物との関わりです。爆発的に増えたシカによって、日本の森林は広範囲に生物多様性が劣化しています。この状況の中、シカの絶滅を防ぎながらどのように生物多様性を維持していくか、大きな課題です。

山門水源の森では、2014年から獣害対策としてシカの捕獲に取り組み、糞粒調査によるモニタリングによれば、個体数密度は対策前の1/10以下に減りました。しかし、山の生物多様性は保全されているかと言えば、必ずしもそうではありません。まだまだ、被害管理（防除）を緩めるわけはいかないのが実情です。



5/2

ネット支柱を固定する杭を打つ



4/29 写真 藤本H

ネットを張れない場所は金網



4/29

密にならないようにして? 昼食

過去の記録から 見えてくる山門の春

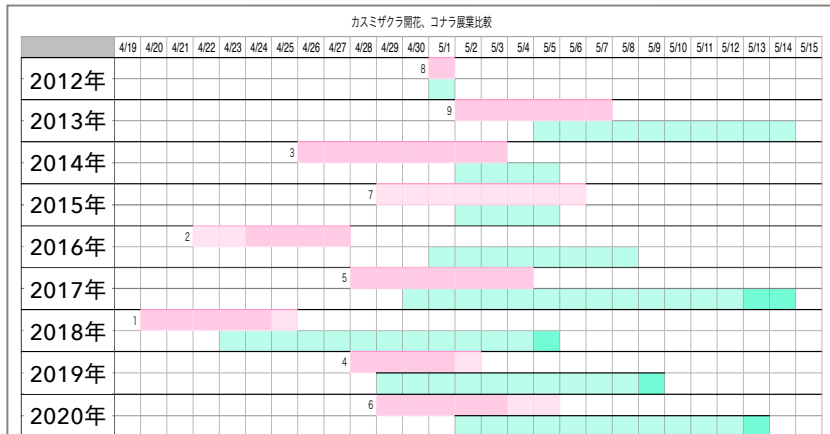
編集子がこの森に関わるようになったのは2012年5月1日からです。当日はカスミザクラが満開で、コナラの白く光る若葉が周辺の山並みに広がっているのが印象的でした。以来、毎年GWの時期が来ると、カスミザクラとコナラの共演が楽しみになりました。しかし、年によってはカスミザクラの開花とコナラの若葉の時期がずれたりなど、期待通りの景色が見られたわけではありません。今年は丁度開花のピークと天候不順とが重なってしまい、青空の下での共演を楽しめずに終了と、残念な結果になりました。

そんなことから、例年カスミザクラの開花とコナラの若葉が白い時期はいつ頃だったのか、調べてみることにしました。調査方法は編集子が撮影した写真、またホームページの過去の定点観測の画像資料などから、条件に当てはまる画像の日付をチェックするという方法です。結果は右中段の図1に示しました。資料数が少ないので必ずしも正確とは言えません。しかし、過去には会員が撮影した画像資料が他にも多数あるはずで、そうしたデータを活用できれば、もっと精度の高い調査ができるのではと考えます。データは膨大にあります。

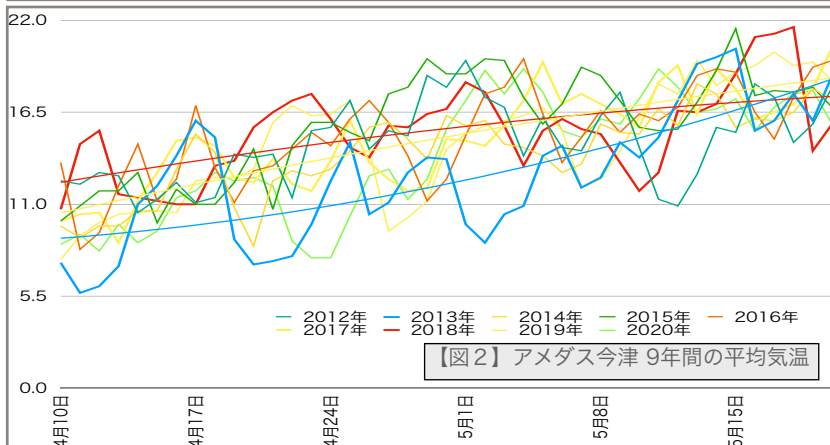
併せて4月10日～5月20日までの、アメダス高島の毎年の平均気温を比較しました。図2のグラフは図1のカスミザクラの開花時期と関連付け、開花の速い年の順から赤→橙→黄→緑→青と色分けし、開花の最も速い年（赤）と遅い年（青）はトレンドラインを引きました。何となく4月の気温の高低が開花や展葉の時期に影響しているように見えますが、どうでしょうか。

展望台をリニューアル中

(株)山久のネーミングライツ資金を活用し、南部湿原の展望台2基のリニューアルをしています。当初はGWに間に合わず予定でしたが、遅れています。今春は新型コロナ禍による外出自粛で来訪者も少なく、影響は少なめでした。現在、鋭意作成中。



【図1】2012-2020 カスミザクラの開花とコナラの若葉の時期を示した図
ピンク=カスミザクラの開花、薄緑=コナラの若葉が白い時期



【図2】アメダス今津 9年間の平均気温



組み立て途中 5/8



1基目完成 5/12